

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課	
	担 当	健康増進G	
会議名 (審議会等名)	令和8年度第1回嬉野市食育推進会議		
開催日時	令和8年6月30日 14:00～15:10		
開催場所	塩田保健センター2階 会議室		
傍聴の可否	☒ 可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
出 席 者	委 員	森委員（会長） 坂井委員 川原委員 佐藤委員 馬場委員 奥委員	末永委員（副会長） 糸山委員 白川委員 鶴田委員 山口委員 福田委員
	事務局	健康づくり課	
	その他		
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	会議レジメ		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
議 題	内 容 (1) 委嘱状交付 (2) 役員の選出について (3) 協議事項 ①令和7年度嬉野市食育推進事業報告について ②令和8年度嬉野市食育推進事業計画について ③委員の皆さまの食育活動と嬉野市の食育について		
内 容	事前に資料を送付し、協議事項について担当課から説明の後、意見を聴取		
審議 経過	事務局	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 嬉野市長挨拶 4. 嬉野市食育推進会議運営及び役員選出について(事務局推薦で承認) 5. 嬉野市食育推進会議会長・副会長就任挨拶 6. 協議事項 (1) 令和7年度嬉野市食育推進事業報告について 1) 食育推進事業について 昨年度新しく実施したものが3つあります。1つ目は母子保健推進員へ、みそ玉と幼児向けの簡単なおやつ作りの講習会を開催しました。2つ目は、がん検診会場でのみそ玉作り講習会です。参加者全員がみそ玉をすすめたいと回答し、大好評でした。3つ目は、「塩田のうまかもん大集合」というイベントへの協力です。地産地消、食文化の継承など食の面から地域の活性化に繋がる催しでした。乳幼児健診における食育指導では、おやつのととり方、朝食の内容ともに昨年度より改善しており、バランスのいい食事としては、みそ汁を食べている家庭が増えているように感じます。 2) 食育広報及び食育推進に関する調査について 嬉野市の事業における広報は、さまざまな媒体を用いて概ね計画どおり実施しました。みそ玉講習会の様子を市報に掲載したところ、『ぜひ作りたい』といったコメントが寄せられるなど、参加者以外からの反響もありました。	

		3) 食育賞について 第 19 回佐賀県食育賞の教育関係者部門を、嬉野幼稚園が受賞されました。
	事務局	(2) 令和 8 年度嬉野市食育推進事業計画について 1) 食育推進事業計画（案）について 食育推進会議は新たに 8 名の委員に就任いただいています。さまざまなご意見をいただきながら進めていきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。食生活改善推進協議会については、昨年度の栄養教室受講者も含め 15 名の方に新たに会員となっただき、今年度の会員数は 120 名となりました。前年度の 115 名から増加しています。食育講演会については、県の食育関連事業があります。この事業は、講師への謝金や旅費が無料で開催できます。ただし、現在はスポーツ栄養の講演のみ申し込みが可能で、中学・高校の部活動やクラブの指導者、保護者等が主な対象となりますので、PTA の委員の皆さまにもご検討いただければと思います。 2) 食育広報及び食育推進に関する調査について（案） 今年度も、学校や保育所、地域での食育の取組を積極的に紹介したいと考えています。実施される際は、ぜひ取材させていただきたいので、ご連絡をお願いします。
	委員	(3) 委員の皆さまの食育活動と嬉野市の食育について（事前アンケートより） 当施設では、農産物加工直売所を拠点として、野菜や味噌、漬物などの加工品の販売を行っています。また、幼稚園等でのみそ玉づくりにも協力しており、今年度も 7 月 10 日に実施予定です。最近は、ズッキーニなど調理方法が分かりにくい野菜について質問を受けることも多いため、レシピや冊子を活用しながら、食べ方を分かりやすく伝えるよう心がけています。
	委員	食生活改善推進協議会では、今年度「愛の一皿運動」の取組を広げていきたいと考えています。高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯が増える中、調理の負担から市販品や弁当で食事を済ませる方も多くなっていると感じています。そこで、私たちが家庭で作った料理を一品でも届け、その際に体調や生活の様子を声かけしながら見守る活動を進めたいと考えています。食生活の改善とあわせて、高齢者の孤立防止や見守りにもつながる取組として力を入れていきたいと思っています。

	委員	中学生の保護者の立場から申し上げます。給食時間が短く、よく噛んで食べることが難しいのではないかと感じています。食育では「よく噛んで食べること」の大切さが伝えられている一方で、学校では時間内に食べ終わることが優先され、早く食べるよう促される場面もあるようです。もう少し食事時間に余裕があるとよいのではないかと感じています。
	委員	中学校の給食時間は、授業終了後に給食着への着替えや配膳を行うため、実際に食べる時間が短くなりがちです。学校でも時間確保に努めていますが、授業時間との兼ね合いもあり、調整が難しい面があります。そのような中でも、配膳準備を円滑にし、少しでも食事時間を確保できるよう工夫していきたいと考えています。
	委員	高齢者を対象に、塩分を控えた食事や食生活改善について声かけを行っています。料理教室でもらったチラシ等を活用しながら、自分で作ることの大切さや、塩分を控えめにした食事の工夫を伝えています。さまざまな事業を計画していますが、高齢者が集まりにくいことや日程調整の難しさもあり、今後機会を見ながら取り組んでいきたいと考えています。
	委員	今回初めて本会議に参加しました。皆さんが非常に内容の充実した計画や実践に取り組まれていることを知り、大変勉強になりました。また、取り組んでいる食育活動も、皆さんと同じ思いで進められていることを実感し、心強く感じています。特に、みそ玉づくりは各方面で具体的に取り組まれており、今後学ばせていただきたいと思っています。まずは身近にできることから、一つずつ積み重ねていきたいと考えています。
	委員	保護者支援の一環として食育に取り組んでいます。離乳食の進め方や、野菜が苦手であること、食事内容に偏りがあることなど、保護者から寄せられるさまざまな相談に応じています。家庭で実践しやすい工夫やレシピを紹介し、子どもが食べた料理を家庭でも取り入れられるよう支援しています。今後も保護者に寄り添った支援を進めていきたいと考えています。さらに、外国にルーツを持つ家庭への食事支援についても検討していきたいと思っています。
	委員	食育は継続して取り組むことが大切であると考え、日々の給食や生活の中で実践しています。「楽しく食べる子どもを育てる」ことを大切にし、クッキング活動だけでなく、乳幼児期から自分で食べる意欲を育てる関わりを重視しています。時間を意識して食べる習慣づけも行いますが、子どもにとって過度な負担とならないよう配慮しながら進めています。
	委員	子どもたちの朝食の状況をみると、朝食は食べていても内容に偏りがあると

		感じています。チョコレートや果物だけで済ませている児童もあり、朝食の「量」だけでなく「質」をどう高めていくかが課題です。また、高学年になると体型を気にして給食を減らす児童も見られるため、食べることの大切さを継続して伝えていきたいと考えています。
	委員	残菜の状況を日々確認していますが、食事時間の短さや好き嫌い、食が細いことなど、さまざまな要因が見られます。和食の献立は残菜が多くなる傾向もありますが、献立を通して「こういう食べ物もある」「こういう味もある」ということを子どもたちに伝えていきたいと考えています。また、嬉野産の食材を使った献立づくりを進めていますが、地元野菜の情報が十分に得られない面もあるため、今後さらに情報共有が進むとありがたいと考えています。
	委員	地元食材を活用した「うまかもん給食」事業に取り組んでいます。嬉野市は米や大豆、お茶などの産地であり、近年は若い就農者も増えてきています。給食センターから地元野菜の情報提供について要望もありましたので、今後、学校給食への地元食材の活用がさらに進むよう連携していきたいと考えています。
	委員	中高年を対象とした健康づくりやフレイル予防教室に取り組んでいます。その中で、「食事バランスチェックシート」を活用し、主食・主菜・副菜のバランスだけでなく、多品目を習慣的に摂取できているかを確認しながら指導を行っています。バランスのよい食事は、1日や1食だけで整えるのではなく、習慣として多様な食品を摂ることが大切だと感じています。また、昨年度から子ども食堂の活動にも関わっており、多世代が集う共食の場として、地域にとって大切な役割を果たしていると感じています。食生活改善推進協議会の長年の活動が、地域資源として子ども食堂の運営にも生かされていると実感しています。
	委員	学校現場における給食指導について伺いたいと思います。昔は、嫌いなものでも少しは食べるよう促す指導が一般的でしたが、現在は「無理に食べさせない」という考え方が広がっているように感じます。一方で、子どもたちの体は食べたもので作られるため、食べることの大切さや栄養の意味を丁寧に伝えれば、苦手なものにも向き合えるのではないかと感じています。どのような考え方で現在の指導が行われているのか伺いたいです。
	委員	保育の現場では、無理に食べさせることは適切ではないと考えています。ただし、「一口食べてみようか」「こんな味がするよ」と声をかけることはあります。味覚や食感の感じ方には個人差があるため、無理強いによって給食そのものが嫌いにならないよう配慮しながら、少しずつ食べられるよう支援し

		ています。
	委員	食育教室で栄養の話をした後、担任の先生から『子どもたち同士で声をかけ合って食べるようになった』という報告をいただいたことがあります。単に「食べなくていい」とするのではなく、なぜ食べることが大切なのかを子どもたちに伝えることが重要だと改めて感じています。
	委員	子どもの便秘の背景には、食物繊維不足や、よく噛まずに食べる食習慣があるのではないかと感じています。学校等で子どもたちに噛むことの大切さを伝えたり、実際に野菜の花や葉を見せて野菜に親しみを持ってもらったりする取組を続けています。嫌いな野菜についても、調理方法や組み合わせを工夫することで食べやすくなることがあるため、料理の仕方も大切だと感じています。
	事務局	事前アンケートでいただいた意見を踏まえ、市の取組について説明します。親子で参加できる食育教室や、みそ玉づくりの機会については、子育て支援センターや親子向け事業の中で実施しています。また、離乳食や偏食などに関する保護者支援については、赤ちゃん相談や1歳6か月児健診、3歳児健診等で個別に対応しています。具体的な支援ニーズがあれば、今後も把握しながら充実を図っていきたいと考えています。
	事務局	7. その他 (1) 嬉野市「子どもが作る弁当の日」取組みについて 「子どもが作る弁当の日」について、令和7年度の実績と令和8年度の計画を報告しました。嬉野市では、本会議での提案をきっかけに平成27年度からこの取組を開始しており、令和7年度も市内すべての小中学校で実施されています。特に5・6年生では、できるだけ自分で弁当を作るよう指導されており、食への関心や自立心の向上につながっていることから、今後も継続して推進していきたいと考えています。 (2) 嬉野市食育推進会議委員名簿
		8. 閉会 (以上)
その他		